

小田原征伐

天正17年(1589)、豊臣秀吉は北条氏に対し沼田領割譲の裁定を行い、北条氏はこの裁定に背き真田領に侵攻した。秀吉は朱印状を發し最後通牒を行なった。そして関白として各大名に北条討伐の書状を發した。関東の領主にも北条討伐の通知し、また家康にも準備をさせた。

天正18年(1590)1月に北条氏も小田原にて籠城することを決定した。(北条氏直、氏政、ほか成田長政・・・) 家康も先鋒部隊を出発させた。秀吉自身が3月末沼津に到着進撃を開始した。

小田原城包圍

北条支城攻略として山中城に秀吉本隊(67,800人)、家康も左軍30,000人、**守備軍4,000人**。豊臣側の攻撃により落城、鷹之巣城、足柄城も山中城落城と同日に陥落し4月初めには先鋒部隊は小田原に到着。韮山城には秀吉側攻撃軍44,100人、**守備軍3,640人**。北条氏親は家康の説得により降伏した。氏親は以降は小田原開城のための説得工作にした。下田城には水軍10,000人が50日にわたり**守備隊600人**で籠城抵抗したが開城した。玉縄城は山中城落城から北条氏勝は700騎を率いて籠城したが4月中旬に降伏開城となり、その後は下総地方の北条方の無血開城に尽力する。小田原では包圍戦が始まると石垣山に「一夜城」を築き、千利休主催の大茶会を連日開いた。また茶々などの妻女も呼び寄せ、箱根に温泉旅行の娯楽に興じた。

北方軍(北国勢、信州勢)、南方からの加勢

松井田城攻撃軍(松平康国、真田信幸・・・)35,000人、**守備軍2,000人**。攻撃から一カ月の4月中旬に降伏開城。国峰城、宮崎城、厩橋城、箕輪城、松山城、西牧城などの上野の各城を攻め落とした。石倉城にて松平康国が戦死。一方、秀吉は南方から武蔵に進撃。玉縄城、江戸城を落とし、下総方面に向けて小金城、臼井城、本佐倉城と落とした。また武蔵国の要衝の河越城の降伏開城、岩付城(攻撃軍20,000人、**守備軍2,000人**)も落城した。鉢形城での戦いは1カ月にもおよび攻撃軍35,000人、**守備軍約3,000人**(北条氏邦)。忍城の戦い、攻撃軍の編成は2~5万人、**守備軍は500余の兵と城下の民合計3,000人**。石田三成の水攻めに遭いながらも1カ月12日間落城しなかったが小田原城開城により降伏した氏長の説得により開城した。城の接收には浅野長政らが務めた。

